

2013年1月 文京区立森鷗外記念館編集・発行(年4回発行)

Rō
og
Ak

文京区立森鷗外記念館NEWS

No.1



左から 山崎一穎 森鷗外記念会会长、加賀乙彦 名誉館長、成澤廣修 文京区長、宮崎文雄 文京区議会議長、森憲二 森鷗外記念会常任理事

開館のご挨拶

森鷗外生誕150年を記念し、2012年11月1日文京区立森鷗外記念館が開館しました。

記念館の建つこの地は、鷗外が半生を過ごした家、觀潮樓の跡地です。鷗外がたくさんの作品を生み出した地であると同時に、様々な人に出会い、歌会など新たな試みをした場でもあり、家族と過ごした憩いの場でもありました。

記念館は、森鷗外の多才な活躍に、鷗外やゆかりの人々、そして文京区ゆかりの文人たちに関する展示、講演会などを開催するとともに、イベントやワークショップ、朗読会、親子プログラムなどの普及活動などを行っていきます。

展示で資料と対面するだけではなく、図書室で鷗外とその作品を調べたり、カフェに立ち寄って語り合い、鷗外の頃より残る大銀杏のある庭風景から鷗外に思いをめぐらせる…。文京区立森鷗外記念館は、訪れた誰もが人や作品と出会い、新しい発見が出来、また誰かに伝えたくなる施設づくりをめざしていきます。

文京区千駄木の地に新たな文化交流拠点“觀潮樓”的誕生です。



れ、研究・顕彰が進展するようになると、記念館への期待を述べました。

続いて、鷗外と同じく医師（精神科）であり、作家であり、文京区在住の詩人『一一番好きな鷗外の文章は『即興詩人』で、日本文学の中でも最高の日本語で作られている。鷗外の日本語のアンデルセンの作品を完全な日本語にしている』と驚嘆し、森鷗外の文学的業績に想いを馳せ、今日の開館は『日本語の大きな喜びでもある。』

成澤廣修 文京区長



開館記念式典

2012年11月1日、文京区立森鷗外記念館の開館記念式典が、森鷗外の生前から残る大銀杏を正面に仰ぐ記念館のアプローチにて行われました。ご遺族をはじめとする関係者や、近隣の商店街、町内会の皆様、その他開館を待ちわびていたたくさんの方々がかけつけてくださいました。

式典は、成澤廣修文京区長挨拶からはじまりました。

開館は、森鷗外生誕150年記念事業の中核を成し、記念館の完成はひとつ区切りであるとして、「内外の多くの方々の支援により館の充実がはかられ、その願いが実った。」と開館に至るまでを振り返りました。千駄木のメエトル（巨匠）森鷗外の遺産を受け継ぎ、後世に引き継ぐことによって、混迷する時代に一筋の光をみつけた鷗外の英知の発信地としていたい、森鷗外がより多くの方々に親しま

れて日本語の大きな喜びでもある。』

そして、養子で森家御当主の森憲二氏が、記念館開館に至るまでの道程を

関係各位・諸機関にお力添えをいただき、無事開館の日を迎えることができました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

開館当日は、平日にもかかわらず、725名の方々のご来館があり、また、たくさんの祝辞や祝花を頂戴いたしました。

最後に成澤廣修文京区長、加賀乙彦名誉館長、宮崎文雄文京区議会議長、山崎一穎森鷗外記念会会長、森憲二、森鷗外記念会常任理事によるテープカットが行われました。



調印式



協定書調印式
左より下森 博之 津和野町長、
北橋 健治 北九州市長、
成澤 廣修 文京区長



加賀乙彦 名誉館長

開館前日、下森博之津和野町長、北橋健治北九州市長をはじめとする森鷗外ゆかりの地の方々をお迎えして、「森鷗外ゆかりの地」文化振興及び地域活性化に関する協定書の調印式が行われました。展示室入口の森鷗外胸像前で、協定書に署名し、抱負を述べました。

文京区立森鷗外記念館　開館によせて

森憲二（森鷗外記念会常任理事）



森憲二 森鷗外記念会常任理事

内覧会



内覧会　展示解説する山崎一穎氏

開館に際して、講座室で「鷗外サミット」と称し、津和野町、北九州市、文京区の三首長と、コーディネーターの森鷗外記念会会長山崎一穎氏によるシンポジウムが行われました。展示室入口の森鷗外胸像前で、協定書に署名し、抱負を述べました。

そのあと、開館記念特別展の監修者である山崎一穎氏の案内のものと、関係者に展示室が公開されました。

記念館のこれから

続いて、講座室で「鷗外サミット」と称し、津和野町、北九州市、文京区の三首長と、コーディネーターの森鷗外記念会会長山崎一穎氏によるシンポジウムが行われました。展示室入口の森鷗外胸像前で、協定書に署名し、抱負を述べました。

そのあと、開館記念特別展の監修者である山崎一穎氏の案内のものと、関係者に展示室が公開されました。

このたび文京区立森鷗外記念館（以下記念館）が開館し、多くの皆様の閲覧を得ているとのことまことに慶賀いたえません。去る十一月一日に催された記念式典においては成澤廣修文京区長と加賀乙彦名誉館長のご挨拶に続き森家からも来賓祝辞を申し上げました。ご関係の皆様の多大なご尽力や物故された方々の幾多の苦労のこもる半世紀の時の流れを思うとき、去來する万感の想いを禁じ得ないのことでした。

また遠来の台湾大学の蔡錫圭先生や嘗てこの庭で除幕式の紐を曳いた孫や曾孫たち共ども招かれた森家一同にとつても感慨ひとしおのものがありました。

このたび文京区立森鷗外記念館（以下記念館）が開館し、多くの皆様の閲覧を得ているとのことまことに慶賀いたえません。去る十一月一日に催された記念式典においては成澤廣修文京区長と加賀乙彦名誉館長のご挨拶に続き森家からも来賓祝辞を申し上げました。ご関係の皆様の多大なご尽力や物故された方々の幾多の苦労のこもる半世紀の時の流れを思うとき、去來する万感の想いを禁じ得ないのことでした。

また遠来の台湾大学の蔡錫圭先生や嘗てこの庭で除幕式の紐を曳いた孫や曾孫たち共ども招かれた森家一同にとつても感慨ひとしおのものがありました。

建築家陶器二三雄氏の設計になる建物はまわりの民家にほどよく溶け込み静かな落ち着いた佇まいをみせる。旧館からの庭の眺望は観潮楼の趣きをよく伝えていたと多くの人が語るが、記念館は資料保存の基本的なしつらえの中に、簡素で静謐な室内に学術的展示がなされ、鷗外の人間像にくつろいで向き合えるよう配慮されている。

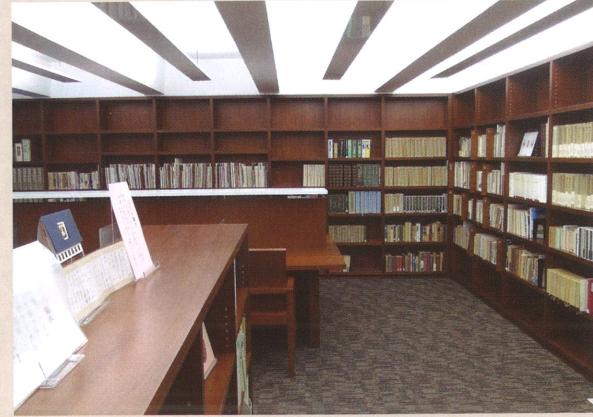
庭のイチヨウや沙羅の木や庭石は、そこにあるだけで豊穣の時も劫火も経たのち遺族の生活を見つめてきた大きな存在を感じさせる。また観潮楼正門の石を跨いで右手にみえる『沙羅の木の詩碑』が、その後の移り変わり

平成二十五年一月十日

記念館はこれらの資料を、さらに後世へと継承し、展示、普及活動を通して、森鷗外そして文京区の魅力を伝えています。

館内紹介

図書室



鷗外の研究図書室を併設しているのがこの記念館の特色のひとつです。当館では、鷗外関係の記念品・原稿の他に、鷗外の研究資料を継続的に収集しています。現在、研究資料を含めた図書資料の収蔵冊数は1万冊を超えます。図書室では、これらの資料を閲覧できます。※

開架書棚には、鷗外全集や今までご寄贈いただいた研究図書の一部、全国の文学館の展覧会図録等が並べられています。また、データベースでは地下1階の展示室で展示されている鷗外の自筆資料、記念品、写真などを閲覧することができます。

この図書室でたくさんの方に、鷗外の作品に出会い、鷗外について知つていただけるようミニ展示等も行っています。図書室のみのご利用も可能です。

※当室は、閉架図書室となっており、資料はすべて収蔵庫におさめられています。
ご利用になる場合は申請が必要です。

モリキネ カフェ



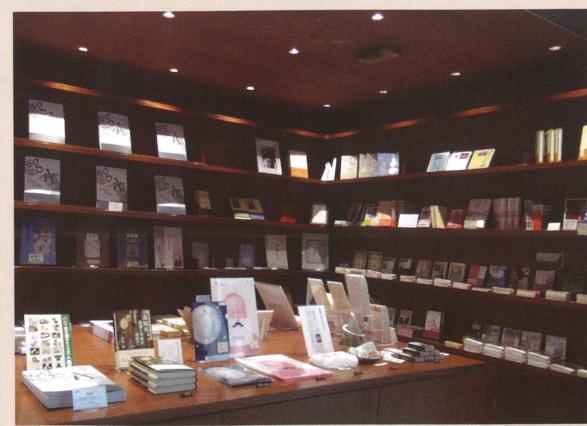
店名「モリキネ」は森鷗外記念館の略称で、皆様に親しんでいただけたお店にしたいと思い名付けました。モリキネカフェでは、コーヒーと3種類の紅茶、2種類のハーブティーをご用意しています。文京区内の和洋菓子店等から公募された、文の京文人銘菓も扱っています。

店内の大きなガラス窓は、かつて観潮楼の正門があった藪下通り側に面しており、大銀杏と鷗外ゆかりの大石のある庭、そして東京スカイツリーを遠くビルの間に眺めることができます。開館以来、大変好評です。

席数15席のこじんまりした空間で、休日には満席になってしまふこともあります。ただし、カフェだけのご利用もできますので、どうぞお立ち寄りください。

※営業時間 11:00～17:00
ラストオーダー 16:30(開館時間と異なります)

ミュージアムショップ



ミュージアムショップでは、記念館オリジナルグッズ、展覧会図録、鷗外の著作や関連書籍を販売しています。

おすすめのグッズは、鷗外自画のみみずくの皿をモチーフにしたクリアファイルや一筆箋です。また、鷗外の顔に髪がのったユニークなクリアファイルも、記念館ならではのグッズです。胸像を制作するときに撮影された鷗外の顔をモチーフにした徽章ピンバッジもお求めいただけます。

「展示を観ていたら、読んでみたいくなつて」と、気になった鷗外作品を探して購入するお客様もいらっしゃいます。より多くの皆様に、文学と触れるきっかけや、記念館を訪れた楽しみを持ち帰つていただけるお手伝いができればと思っています。

開館記念特別展「150年目の鷗外—観潮楼からはじまる—」

2012年11月1日(木)～2013年1月20日(日)



展示報告

常設展示 鷗外の生涯

観潮楼の日々

展示室1では館蔵資料を中心、鷗外の生涯と、鷗外が暮らした観潮楼について、展示室2では2006年に小堀家よりご寄贈いただいた文京区初公開資料を中心に、鷗外と子どもたちとの交流をご紹介しました。新しい記念館では広い展示スペースを利用し、以前よりたくさんの資料を列品することができるようになりました。

島根県津和野町で生まれ10歳で上京した鷗外が、60歳で亡くなるまでを、11の時代に分け、鷗外の生涯とともに、著作からの引用を通じて、内面に抱えていた想いや葛藤を紹介しました。引用したことばを通じて鷗外の新たな一面を感じ、作品を読んでみようと思つしやるお客様も多くいらっしゃいました。

当館では作品の原稿以外に、多くの日記や書簡、手記などを所蔵しています。精緻なドイツ語で書かれた大学時代の講義ノートには、鷗外自筆のスケッチもみることができます。初めてご覧になつた方からは、鷗外の書いた文字がとても丁寧できれいなこと、たくさんの物事を細かくまとめあげていることに感心した、との感想がありました。また、鷗外が軍医でありながら、小説だけでなく、翻訳や評論も手がけていた事実を初めて知つたという声もきかれました。

最晩年の資料として展示した親友賀古鶴所が鷗外の口述を筆記した遺言書や、大正10年横浜港で鷗外が歩く姿を捉えていた映像

が、珍しいものを見ることができたとの声もいただきました。

パツパ鷗外



映像室では3種の映像作品を上映しました。プログラムは「よみがえる観潮楼」「鷗外の町千駄木」「鷗外を語る」です。ゆっくり座つてすべての番組をご覧になる方が多く、わかりやすくまとめてもら正在いるとの感想も寄せられました。この映像作品は常設として今後もご覧いただけます。

展示室2では、2006年に小堀鷗一郎氏(鷗外の次女・杏奴のご遺族)よりご寄贈いただいた資料を中心展示しました。

鷗外が杏奴宛てた葉書や、勉強をみるため作つたメモ、4人の子どもたちが大きくなつてから手がけた、父鷗外を偲ぶエッセイの原稿等を展示了しました。

また、杏奴のインタビュー(1992年)

録音)から作成した音声コンテンツにより、

最晩年の資料として展示した親友賀古鶴所が鷗外の口述を筆記した遺言書や、大正10年横浜港で鷗外が歩く姿を捉えていた映像

が、珍しいものを見ることができたとの声もいただきました。

展示室2では、2006年に小堀鷗一郎氏(鷗外の次女・杏奴の

これからの催し

催しは全て事前申込制です。詳細は、HPやチラシをご覧いただけます。
当館までお問い合わせ下さい。会場は、当館2階講座室です。

講演会のお知らせ

コレクション企画関連講演会

◇『アンヌとパッパをつなぐもの』

—ことばの花束—

日時・2月24日(日) 14時～15時30分

講師・小川康子氏(東海大学講師)

定員・50名(事前申込制)

受講料・無料

文の京ワークショップ ◇『トールペイントでブックカバーをつくつてみよう!』

日時・2月18日(月) 13時～15時

講師・本間由美子氏
(トールペイント・インストラクター)

定員・20名(事前申込制)

参加費・材料費をいただきます

◇鷗外作品を読む1

『山椒大夫』

—ことばの美しさを求めて—

日時・4月6日(土) 14時～15時30分

講師・清田文武氏(新潟大学名誉教授)

定員・50名(事前申込制)

受講料・無料

◇『千駄木のメエトル』

鷗外と若い人たち

日時・4月6日(土) 14時～15時30分

講師・倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事・日本工業大学非常勤講師)

定員・30名(事前申込制)

受講料・無料

親子文学プログラム

◇『ブックマークをつくろう!』

日時・3月20日(水祝) 13時～15時

講師・富山加代子氏
(クラフト・インストラクター)

定員・15組 ※小学生以上の親子

参加費・材料費をいただきます

※この他3月に『文学読み聞かせ』を予定しています

朗読会

◇『シンボジウム「光源としての『森鷗外』」』

—いま、〈近代〉を問い合わせるために—

日時・3月6日(水) 10時30分～17時30分

講師・小泉浩一郎氏(東海大学名誉教授)

宗像和重氏(早稲田大学教授)

井戸田総一郎氏(明治大学教授)

大石直記氏(明治大学教授)

高橋義人氏(京都大学名誉教授)

定員・50名(事前申込制)

受講料・無料

其催・明治大学人文科学研究所

◇『3月に開催予定です』

鷗外胸像

武石弘三郎作



記念館の地下1階、展示室入口に設置されている鷗外の胸像。これは鷗外が1912年、雑誌「文章世界」の読者投票で翻訳家の1位となり、記念に出版社から贈られたものです。制作されたにあたり、鷗外は作者に武石弘三郎を指名し、武石に像の材質や大きさ、服装やポーズを一任しました。この頃の日記には、武石の家へ鷗外が赴いた様子が記されています。

1914年の完成後は、鷗外の自邸「觀潮樓」の庭に設置されていました。戦後しばらく、觀潮樓の焼跡に野ざらしになっていましたが、1954年の鷗外33回忌の折には、武石自身が汚れを拭い、修繕をしています。その後もずっとこの地を見守り、今は地下1階の展示室で皆様をお迎えしています。

【交通案内】

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
- ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
- ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18 特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分

※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL:03-3824-5511
URL:<http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)、

及び展示替期間、焼蒸期間等

印刷物番号 J0112052



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum